

了徳寺大学研究紀要第3号の発刊に寄せて

この了徳寺大学研究紀要第3号には、芸術学部の先生から3編、健康科学部の各科・センターからあわせて4編の投稿がなされている。

芸術学部の3編は、明代の朱子学における理学に関する理論的研究、西周青銅器とその銘文に関する研究、書家としての空海が「性霊集」において初めて試みた書論に関する研究と時代を越え和漢にまたがる幅広い論考が発表されている。

健康科学部からは、軟部組織硬度計による生体硬度測定の信頼性の検討、柔道選手の膝損傷に関する研究、アスレティックトレーナーのイメージについての検討など、該当学科の専門性に関わる論考のほか、老化の生物学—ピンピンコロリの理論、と題して現代の疾病の最重大課題の最新理論をまとめた論考も載せられている。

了徳寺大学は芸術学部と健康科学部という色合いを異にする2つの学部からなるが、この了徳寺大学らしい幅の広さをもっているといえる。

この幅広さが、ただの百貨店のそれであるか、fine artsとsciencesとを橋渡しする新しい概念を生み出すことになる専門店の目玉になるかは、了徳寺大学教員の研究者としての創造的努力にかかると期待しています。

平成21年3月

了徳寺大学学長 増山 茂